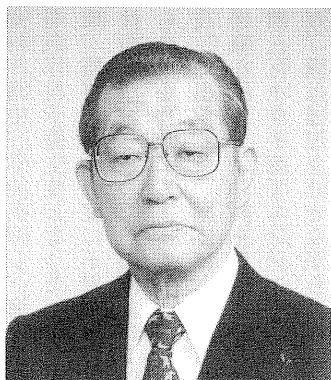


音楽三田会

〒105 東京都港区西新橋1-10-8
-0003 第2森ビル
ミリオコンサート内
音楽三田会事務局
TEL 3501-5638
FAX 3501-5620

戦中派としての雑感

岩間宏文



氏文宏岩間

「軍人に賜りたる勅語―軍人勅諭」を金科玉条の如く暗誦させられたが、

任官後配置された奥の安浦海兵団

戦前の日本男子で普通程度の健康の者なら、免れない義務は「兵役」であった。これは絶対的なもので、忌避すれば逮捕・収監の憂き目を見るのみならず、家族が「村八分」されてしまう。この兵役経験は昭和初年出生した年代までと思われ、会員各位の大部分には縁がなく、知らないと思うので、徴兵検査合格者が入る軍隊について敢えて書いてみる。

その中に「上官の命令は朕（天皇）の命令と心得よ」とあって、上官に対する反抗は「抗命罪」として厳罰され、下級の者は全くの無権利状態であった。

私は海軍に入り最初二等水兵になったが、教班長・古年兵から、幸運なことに世間で言われているような野蛮な扱いを受けたことがない。試験があり、二ヵ月後予備学生となったが、身分は将校待遇であり、士官服に短剣である。訓練としては猛烈に鍛えられたが、自尊心を傷つけられる陰湿な制裁ではなく、任官後は部下の生命を預かる将校学生として恥ずかしからぬ行動であるかどうかで制裁があったが、理不尽なものはなかった（将校学生にあるまじき言動があり、又将校不適格と認定された者は学生罷免となり、下士官・兵籍に落とされた）。

から直ぐ派遣されたのは、豊後水道の日振島回天基地設営隊指揮官（三〇〇名）であり、転じて高知の陸戦隊中隊長（二〇〇名）を歴任したが、大した空襲もなく潤沢な食料に恵まれ、栄養失調に苦しんだ一般国民に申し訳ない生活で終戦を迎えた。復員・復学したが、押し出しのチューブよろしく、大した勉強もせずに卒業したので、学力不十分を自覚しており、誠に忸怩たるものがある。

その運の良さが裏目に出たかどうか、一九四六年、就職難で止むを得ず入社した東宝株式会社始め、勤務した映画数社では、サラリーマンとして落第生となった。その遠因は私の恵まれた軍隊生活にあったように思われる。憶い返してみると、私は上官・上役に仕えた辛い経験がないようだ。子どもの時の志望と全く違った人生を歩いていると常に考えるが、とは云え一九五七年独立以来現在まで芸術・芸能業務を継続して来たのは「天職」と感謝している。

私と一緒にヨット部生活を過ごした守安祥太郎は戦後稀有のジャズ・ピアニストとして名声を今に伝えているが、惜しいことに一九五五年に目黒駅で鉄道自殺してしまった。おっとりしたボンボン・タイプで、房

総岩井海岸で合宿の時、幼稚舎・普通部出身の仲間とウクレレを弾き、ハワイアンを歌った様子をいまだに

思い出す。由緒ある裕福な家庭（運転手付きの自家用車所有）に育ったので、人と競争して相手を蹴り落しても浮かび上がるといったがめつさがなかった。だから自分の音楽を追求し楽しむ風があった。彼は軍隊経験としては昭和二十年一月小平の陸軍經理学校に入り、特別甲種幹部候補生（略して特甲幹。初年兵経験なし、階級は伍長・下士官）になったが、出動した軍人としての初任務は昭和二十年三月十日東京大空襲の救援活動であり、夥しい無数の死体処理であった。彼の伝記「そして、風が走りぬけて行った」を書いた音楽三田会の植田紗加栄女史によれば、この悲惨な体験が彼に人生の無常観を刻印し、失恋・芸術上の悩み等々と重なり、後年の悲劇の背景にあると見ている。

守安と私の事例を見てみると、没義道な陸軍・海軍の制裁も社会を知る勉強になったであろうし、恵まれた環境の者には盤根錯節、七転び八起き的な逞しさに欠けるかも知れない。私の場合、妻子を扶養する義務が屈辱感に耐え、腕一本、脛一本の人生を切り開く原動力になったと思う。

音楽の基本はハーモニー（調和）であり、平衡感覚であるが、その一例として同窓の友人、小田野正之君の逸話を書く。彼は東京音楽学校声

楽科在籍中、学徒出陣し、海軍第一期飛行科予備生徒となった。戦争末期、機材・燃料極度に不足し、操縦技術の訓練も極めて短期間しか受けられなかったにも拘らず、「沖繩特攻」に出撃した。胴体に八百キロの爆弾を吊り下げ沖繩を目指すが、目標三百キロ手前でエンジン不調となり、機は黒煙を吐きながら高度低下し、編隊飛行できず、止むなく基地に戻る。通常爆弾を洋上投棄するが、高度低過ぎ自爆してしまう。故障した機を苦心惨憺して操縦しつつ基地に辿り着くが、生存の唯一の可能性は「三点着陸」しかない。八百キロの重量を抱えているので、主翼下の二輪で着地すれば機はトンボ返り。尾輪で着地すれば尻餅ついて逆トンボ。どちらにせよ巨大な爆弾が爆発し、基地は壊滅的な破壊を受ける。

主輪と尾輪の同時着陸―三点着陸―が唯一の途であるが、彼は敢えてこの離れ業を見事に演じて基地を救った……。

私は彼の優れた運動神経と音楽家としての平衡感覚が物を云い、絶対的な危難を免れたのではないかと考えている。

結び

現今、日本人の最大の問題点は「責任の欠如」である。私の小学生の頃勃発した満州事変・上海事変、

盧溝橋を発起点とする日中戦争、ソヴィエトとのノモンハン事変。そして惨憺たる敗北に終る太平洋戦争に至るまで、戦争責任と断罪を一つとして明確にせず、有耶無耶にしてきたところから、現時点の腐敗・墮落と無気力が招来されたと考えている。(極東軍事法廷は勝者アメリカのご都合裁判に過ぎない!) えらい人が無責任で、なんで庶民の姿勢を糾弾できようか。

家柄・財産・学歴などは、人間の本質的価値とは無縁である。人間の値打ちは苦悩に耐える力であるが、日本は鎖国で三百年間太平の惰眠をむさぼったので、結果として西欧諸国の進運から甚だしく遅れた。明治維新以降百三十年経ったが、その遅れを克服するのは、なお容易でないと思えるべきだ。

偶々朝鮮・ヴェトナム・湾岸戦争等の他国の不幸を転じて、経済大国になったと、自惚れ、後進国に差別的優越感を持ち、強国には劣等感を抱く。訳の分からぬ横文字の羅列・氾濫は、日本語を大切にしない亡国の兆候と自覚すべきであろう。

略歴

昭和十八年十二月学徒出陣。海軍兵科第四期予備学生を経て海軍中尉。一九四六年慶応義塾大学経済学部卒業。現在(有)文藝プロダクション

代表取締役。会社は目下二十九期。国税庁源泉徴収免税証明書交付法人。国内の有力な芸術団体・芸術家・芸能人・劇場だけでなく、海外芸術団体とも提携し、取扱業務は映像・芸術・芸能の全分野を網羅している。(二〇〇〇年四月二十五日)

今ごろのパリ

吉田 進

2000年6月

■外国に住んでいるため、どうしても日頃御無沙汰しがちです。そこで僕の近況報告も兼ねて、パリの話題をお伝えしたいと思います。

☆2000年ぶりに解けたルイ17世の死の謎

日本でも報道されたことと思いますが、フランス革命史の謎のひとつがいかに解き明かされました。革命による王政崩壊の後処刑されたルイ16世とマリー・アントワネットの息子ルイ17世は、1795年6月8日に結核のため獄死したとされながら、実はそれは替え玉で本人は逃亡したという説もあり、100人近くがルイ17世を名乗り出ていました。当時検死の際抽出されたDNAを、マリー・アントワネットの遺髪のをそれと比較したとこ

ろ、両者が一致したのでした。科学万能の時代はどうに終わったとは言え、これはまさしく遺伝学の成果と申せましょう。従って拙著『ラ・マルセイエール物語』(中公新書)の71ページ、11行以下を次のように訂正いたします。『16世の子供17世は、1795年に10歳で獄死した』
 其補は某社に譲渡本でいる也

☆フランス人が選んだ「20世紀のクラシック名盤ベスト・テン」

ミレニアムにちなんで、フランスの音楽雑誌『ル・モンド・ド・ラ・ミュージック』の読者が選んだベスト・テンは次のとおり。すべて日本でも入手出来るものばかりです。

①歌劇《トスカ》(プッチーニ曲、カラス主演、デ・サバタ指揮、EMI、1953年録音)

②交響楽第9番《合唱付》(ベートーヴェン曲、バイロイト祝祭管弦楽団、フルトヴェングラー指揮、EMI、1951)

③《大地の歌》(マーラー曲、フェリアー歌、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ワルター指揮、デッカ、1952)

④《ゴルドベルク変奏曲》(バッハ曲、グールド/ピアノ、ソニー、1981)

⑤歌劇《ドン・ジョヴァンニ》(モーツァルト曲、ヴェヒター主演、ジュリーニ指揮、EMI、1959)

⑥《四つの最後の歌》(R. シュトラウス曲、シユワルツコップ歌、ベルリン放送交響楽団、セル指揮、EMI、1965)

⑦《無伴奏チェロ組曲》(バッハ曲、カザルス/チェロ、EMI、1936)

⑧《ヴァイオリン協奏曲》(ベートーヴェン曲、メニューイン/ヴァイオリン、フィルハーモニー管弦楽団、フルトヴェングラー指揮、EMI、1947)

⑨《冬の旅》(シューベルト曲、ホッター歌、ムーア/ピアノ、EMI、1954)

⑩《ピアノ協奏曲(2曲)》(ラヴェール曲、フランソワ/ピアノ、パリ音楽院管弦楽団、クリュイタンス指揮、EMI、1959)。50年代のものが目立ちますが、当時の至らぬ録音技術を思えば、この投票結果は、音楽とはいったい何なのかを考えさせてくれます。カザルス演奏の《無伴奏チェロ組曲》(バッハ)などは、なんと第2次世界大戦以前の録音!しかし、もしまだこの名盤をお聴きになっていらっしゃらないなら、今年はバッハ没後250周年、ますますレコード屋に飛んで行って購入されることをお勧めします。人生が豊かになること請け合いです。

☆拙作《ジャンヌ・ダルクの五つの時間(とき)》完成
室内オーケストラのための新作「ラ・セーヴ」委嘱作品 がようやく完成

し、ホッとしています。ジャンヌという女性の内面の豊かき、複雑さは驚嘆すべきもので、ドライヤーの『裁かるジャンヌ』、ブレッソンの『ジャンヌ・ダルク裁判』、あるいはリヴェットの『ジャンヌ』といった傑出した映画が、結局それぞれジャンヌの一面しか描けていないのは、そのためと思われまます。僕もすでに、ジャンヌを主題とした別の作品を二作、計画しています。偶然にもこれで、フランス国歌

《ラ・マルセイエーズ》と並ぶこの国の象徴に取り組んだことになりませんが、機会が許せばジャンヌ・ダルクについても、本を書きたいと思っております。またこれまで、外国に住むと見えてくる「内なる日本」を表現してきた僕にとつて、初めてのフランスの主題でしたが、四半世紀を越える滞仏経験を踏まえたこの創作は、確かな手応えの感じられるものでした。今後は積極的に、西洋の素材にも取り組んで行くつもりです。

《ジャンヌ・ダルクの五つの時間(とき)》は来年、ブルターニュ管弦楽団(指揮矢崎彦太郎)によってレノス市で初演、その後フランス各地で演奏される予定です。

☆拙作《アゲイン》のCDがリリース
昨夏アリオン音楽財団によって日本に招かれた、ヨーロッパ中世の古楽器ハーディルガーディの合奏団「ヴィエリスティック・オーケストラ」の演奏による、《アゲイン》アンサンブル

のための(フランス政府委嘱作品)のCDが、このほどリリースされました「フランスAlba musica, AL-0420」。お聴き頂ければ幸いです。

●第34回懇親総会スナップ



「音楽三田会」会則



自著を宣伝する加藤浩子さん

一、本会は「音楽三田会」と称し、会員相互の親睦と交流を目的とする。
二、本会は、慶応義塾に学び、音楽を職業とする者、また音楽活動にかかわりのある者をもって会員とする。
三、定例懇親会は原則として年二回(一月、七月)開催する。

四、本会は、会長一名の他、副会長、監事、幹事および必要に応じて名誉会長、顧問、相談役を置くものとする。(複数可)
五、会員は入会の際に入会金(一万円)を納入し、また会合の都度、出席者は参加費を支払うものとする。

付則 一、会報並びに会員の名簿を発行する。
富士銀行新橋支店 口座名 音楽三田会 (東京都港区西新橋1-10-18)
口座番号 普通 986174番

☎03-1350115638

音楽三田会会計報告 (1999.4.1~2000.3.31)

A 収入の部	640,282.-
入会金 4名	40,000.-
銀行利息	282.-
第33回7月17日(土)屋形船会費 28名	280,000.-
サントリー音楽財団協賛ビール代	20,000.-
第34回1月29日(土)東京三田倶楽部会費 60名	300,000.-
B 支出の部	898,768.-
第33回懇親総会・屋形船平井	290,000.-
第34回懇親総会・東京三田倶楽部	240,160.-
名簿第12版印刷費	120,750.-
会報第10号印刷費	52,500.-
封筒角3、長3、各500印刷製作費	26,250.-
出欠はがき両面印刷費300×2回	24,150.-
総会案内コピー代2回	8,000.-
ワープロ・ラベルシール 写真等はがき (@50×600)	10,958.-
切手 (@80×300、@240×300)	30,000.-
A-B=	△258,486.-
C 前期からの繰越金	△1,212,309.-
A-B+C=次期へ繰越金	合計△1,470,795.-

●第34回音楽三田会懇親会出席者
 2000年1月29日(土)午後1時
 東京三田倶楽部
 青山昌弘、秋山晃男、穴井康恵、荒井宣之、磯地英樹、磯村健二、岩間宏文、小川光彦、小尾旭、笈田敏夫、大石泰、大橋一夫、大橋節夫、大橋幸雄、大山英治、加藤浩子、金森圭司、君塚裕重、黒川昌満、黒沢宏、小森昭宏、上坂樹、呉信樹、後藤暢子、後藤田夫規子、佐藤正明、境新一、桜井武、清水久嗣、関正喜、高濱哲郎、滝口明、寺西春雄、中川滋、中尾知彦、中畑淳、中丸美絵、中村勝彦、丹羽稔夫、西脇義訓、乃村博子、林田直樹、又村里実、美山良夫、本能率協会マネジメントセンター・日

峰岸壮一、宮本信生、村山宣久、山崎一夫、山下博蒼、山中徹夫、山田治生、湯浅譲二、湯浅玲奈、吉田雅樹、吉田雅信、若松敏、若松正司、渡辺純子

◎新入会員紹介
 ◇神谷百子さん(女子高1984卒) マリンバ演奏、洗足学園大学、沖縄県立芸大、愛知県立芸大などの講師
 ◇上坂 樹君(1974院退) 朝日新聞社会学芸部、音楽担当記者
 ◇大橋一夫君(1980法卒) 六本木のミュージックハウス・ハニー代表、大橋節夫副会長のご子息
 ◇地曳幹夫君(1999経卒) 日本能率協会マネジメントセンター・

通信教育添削指導講師
 ◇野田裕里子さん(1988文卒) 電通イベントスペース開発局勤務、音楽イベントに携わる
 ◇山岸美穂さん(1994文院) ワグネルのヴァイオリン出身、専門は社会学で大妻女子大、神田外語大、慶応大、桐蔭横浜大、山口大、早稲田大学などで非常勤講師
 ◇親子会員4組、兄弟会員4組誕生
 ●毎月一回会合しています
 毎月第一月曜日夜七時から、帝國ホテル本館地下二階の東京三田倶楽部にて、月例の幹事打合せ会を行っております。音楽三田会会員はどなたでも出席自由です。(第一月曜日休日の場合は第二、第三月曜)

●会計報告で、赤字が累積する一方をご心配いただき、恐縮いたしております。お分りの通り、それは名簿・会報の発行と通信連絡費です。実は入会金未納の方が多勢あります。近々チェックしてご請求させていただきますからどうか宜しく。

●それにつけても、屋形船案内にも書きましたが、会員間の情報交換・交流また告知宣伝など活発に行いたいと思います。そのため編集部がハッスルして、忙しいにも拘らず、会報を年2回発行を決意しました。つきましては皆様のご投稿を歓迎いたします。ご予約を乞う一報。次回の情報会員案内は11月末です。

事務局 小尾 旭

●第34回音楽三田会懇親会出席者
 2000年1月29日(土)午後1時
 東京三田倶楽部
 青山昌弘、秋山晃男、穴井康恵、荒井宣之、磯地英樹、磯村健二、岩間宏文、小川光彦、小尾旭、笈田敏夫、大石泰、大橋一夫、大橋節夫、大橋幸雄、大山英治、加藤浩子、金森圭司、君塚裕重、黒川昌満、黒沢宏、小森昭宏、上坂樹、呉信樹、後藤暢子、後藤田夫規子、佐藤正明、境新一、桜井武、清水久嗣、関正喜、高濱哲郎、滝口明、寺西春雄、中川滋、中尾知彦、中畑淳、中丸美絵、中村勝彦、丹羽稔夫、西脇義訓、乃村博子、林田直樹、又村里実、美山良夫、本能率協会マネジメントセンター・日

- 音楽三田会役員
- 会長 寺西春雄
 - 副会長 笈田敏夫
 - 副会長 大橋節夫
 - 名誉会長 服部正
 - 幹事(以下あいうえお順) 安倍 寧
 - 石川 浩
 - 石橋 裕
 - 磯村 健二
 - 岩尾 純一 (会計担当)
 - 大英 治 (編集担当)
 - 岡山 弘道 (事務局担当)
 - 小尾 旭
 - 観世 栄夫
 - 喜早 哲夫
 - 北村 昌治
 - 黒川 満
 - 黒沢 宏
 - 小森 昭
 - 小川 星
 - 小島 宏
 - 呉信 樹
 - 清水 久嗣 (編集担当)
 - 滝口 明 (企画担当)
 - 中畑 淳
 - 中丸 美絵
 - 西脇 義訓
 - 乃村 博子 (広報担当)
 - 美山 良夫
 - 峰岸 壮一
 - 三善 達夫
 - 山田 博
 - 山下 清
 - 吉田 雅
 - 渡辺 純子 (編集担当)